

東京外国語大学留学生支援の会会報

第 16 号 2004 年 6 月 1 日

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課

Tel : 042-330-5183 or 5185 Fax: 042-330-5189

E-mail: is-tufs@nifty.ne.jp URL : <http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

1. 発足からはや5年が経ちました

会長 中嶋洋子

新緑の美しい季節がまた巡ってまいりました。会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか？ 振り返ってみますと、留学生支援の会の初会合が平成 11 年 6 月に北区の旧キャンパスで開かれて以来、すでに 5 年が経ちました。

最初はどのように発展させていけばよいのか、暗中模索の不安な日々でしたが、皆様の強力なバックアップのおかげで、今では会員 626 名の大所帯となり、活動も少しずつ豊かになってきました。

何度も申しますが、この会の会員は「同窓」の強い絆のもと、それも外国との関係を大切にする東外大の OB、OG が 95%以上を占めており、さらには府中キャンパスを愛して下さる地域住民の方々、大学と何らかの深い関係のある方々などが会員になって下さり、そうした会員の皆様の留学生への思い入れは他のいかなる組織よりも深く強いと信じています。そこが単なるボランティアとは大きく違う、と思います。それだけに責任を感じています。

さて、現時点でお伝えしたいことの要点を以下に列挙致します。8 ページ以降の添付資料と合わせてご覧ください。

1. 昨年度の事業報告、決算にお目通し下さい。また、16 年度事業計画（案）、予算（案）について、どうぞご意見をお寄せ下さい。いつものことですが、総会を開かないかわりに、ご意見があれば幹事会で審議、修正を加えながら、次号会報が出る秋には決定とさせていただきます。

2. 主として昨年の秋にいただきました寄付につきましては、次のように処理をさせていただきました。一般のご寄付なのか、緊急貸付基金へのご寄付なのかははっきりしないケースもありましたが、それらは寄付をお願いした時期から考え、緊急貸付基金にまわさせていただきました。

・一般寄付総額 1,389,000 円のうち、一般会計へ 779,000 円、緊急貸付基金へ 610,000 円。

・緊急貸付基金へのご指定のあった寄付総額は 356,000 円。

・緊急貸付基金総額は現在、2,566,000 円。

3. 一般会計へのご寄付の繰り入れがあり、多少のゆとりができましたので、支援の会設立当

☆☆☆ 平成 16 年度会費納入のお願い ☆☆☆

会員の皆様には、平成 16 年度も引き続き会員としてご支援頂きたく、本年度会費（一般会員：3,000 円）を同封の振替用紙にてお振込み下さいますよう、お願い申し上げます。（すでにお振込み頂いている方は、封筒の宛名ラベルにその旨が印刷されています）

初からの大きな目標でもあった奨学金の支給を予算に組み入れました。幹事会では、奨学金基金なるものを蓄えてから奨学金支給を実施しようと考え続けてきましたが、なかなか実現が難しい現状から、実に小規模ながら実現させていこうと判断致しました。詳細は未定ですが、私費留学生1人に1ヶ月5万円を半年間給付の方向で考えています。ご理解下さい。同時にご意見がありましたらどうぞお寄せ下さい。

2. 活動報告

2-1 支援の会連絡室の活動状況

大学内の「国際交流情報資料室」に開設している「支援の会連絡室」については、これまでも会報で活動状況をお伝えしてきましたが、留学生の相談対応だけでなく、華道、茶道、将棋、書道、ギターなど、各種教室も開催しています。

今回は、東外大の卒業生で、習字教室を担当されている山口隆さんから、活動の様子をご報告いただきました。

習字教室について

山口隆さん(中国語学科昭和39年卒業)

私は昨年4月から毎週金曜日の午後、留学生および一般学生を対象として習字教室を開いています。それ以前は佐々木先輩の将棋のお手伝いをしていましたが、昨春 ISEP (短期留学の制度) の香港留学生から習字をやってみたいという希望があり、昔書道の師範だった亡父から手ほどきを受け、免許も取ったことがあるので快く引き受けることにしました。

私のほかに第一、第三金曜日には佐野祐美子先生が生け花の教室を同じ教室で同時に開いており、数多くの留学生や一般学生の方が参加し、いろんな言葉が飛び交いとても賑やかです。本来習字は華道とともに自己修練の場でもあるので、し

わぶき一つ聞こえないはずですが、私を筆頭にみんなでいつも楽しくワイワイやっていますので、お隣の生け花班の人たちには、いつも大変迷惑をおかけしています。

私自身、習字を教えるのは初めてですし、生まれて初めて「先生、先生」と呼ばれ何かそばゆい感じがします。習字に来る人たちにはいろんなタイプの方がいます。授業の息抜きに来る人、教室をのぞきにきて好奇心にかられる人、とにかく一度は筆を持ってみたい人、小学生のとき書いたきりで久しぶりに筆を持ちたい人、漢字をたくさん書きたい人、留学生と話したい人、友達がいらないのが淋しくてやってくる人などいます。

一回きりでやめる人もいれば、ドイツのD君や、ポルトガルのN君みたいに常連で自分が納得するまで書き続ける人もいます。また型にはまった習字よりは、左利きの筆で見事な漫画を描いて自慢する留学生もいて多士済々です。

教室に入ってくる誰もがみな習字に興味を持っているようですが、とりわけ一年の交換留学できている ISEP の人たちが、もっとも積極的のようです。おそらく短い日本滞在中に習字でも、生け花でも日本文化なら何でも体験してみたいという気持ちが強いのでしょう。私の流儀はたとえ教室に見学にきただけの人や遠慮している人に対しても、まず強引に筆を持たせてしまいます。筆の使い方がよくわからない人には一緒に筆を持って書きます。みんなひらがなよりも漢字を書きたがるので、まず横棒、縦棒、左払い、右払い、および点やはねの練習を重ね、次に組み合わせて「日本」と書いてもらいます。それだけでも興味津々、次に小学校一年生向きの「初日の出」などの手本の上に用紙をおいて、その上からなぞってもらった後、手本を横においてその通り書かせます。自信がつけば、さらに上級の手本に挑戦してもらいます。最後に、左端に小筆で名前も書いてもらいます。消しゴムに名前を彫刻刀で彫って、はんこの代わりにし、朱肉で押印するとかっこよく仕上がります。記念に本人に作品を持たせ写真を撮ってあげます。

☆☆☆ ご寄付の御礼 ☆☆☆

次の方々からご寄付をいただきました。ありがとうございました。

伊藤芳郎、鈴木幸壽、高瀬保、匿名希望の方

(敬称略、50音順、平成16年2月1日～4月26日)

「小さな体験と楽しい交流」、面白そうだと思う方は是非一度金曜午後の教室に「お遊び感覚」でてください。意欲のある方は遠慮なく生け花にも挑戦してみてください。

2-2 ホームビジット報告

ホームビジットをお引き受けくださったご家庭には、心よりお礼申し上げます。

昨年度は受け入れ家庭 18、希望留学生 59 名（延べ 84 名）がホームビジットを体験しました。留学生たちは、それぞれ思い出に残る楽しいひと時を過ごし、感謝の気持ちを伝えてきました。

なかには、受け入れ家庭への連絡を思うように出来ない留学生もあり、ご連絡をしないままになって、大変失礼をしてしまった場合もありました。日本語を上手に話せない留学生にとっては、電話での連絡なども大変なこともあり、昨年度からは、当会が間に立って、留学生と受け入れ家庭との連絡を密にして、失礼の無いよう努めてまいりました。

何人かの留学生は、ホームビジットを継続し、受け入れ家庭との交流を深めています。受け入れ家庭の皆様からは、報告書や写真等でその様子をお知らせいただきました。どうもありがとうございました。

今年度もご協力をよろしくお願いいたします。（6 ページに留学生のホームビジット体験記を掲載してあります）

2-3 ホームページ運用状況

昨年 4 月に正式に開設したホームページですが、アクセス件数は 6,624 件（4 月 17 日現在）で、毎月平均 500 人が見ていることになります。ホームページでは、会報ではなかなかお伝えできない、イベントに参加した留学生の写真なども掲載してありますので、皆さん、どうぞご覧ください。

ホームページ上の「留学生掲示板」は延べ書き込み数 116 件で、内容は(1)留学生間の交流、(2)東外大入試や進路相談、(3)部屋探し、部屋のシェア、バイト相談などの生活相談、(4)当会関連、(5)引越し、就職などに関する外部企業や団体からの PR 的書き込みなどがありました。

この 1 年間で留学生掲示板はずいぶん活用されるようになり、外部からも注目されています。

また、当会の E-mail は会報やホームページにも掲載されていることから、さまざまなメールが届いています。

内容は、会員の動静連絡、当会の活動への参加や入会申し込み、生活用具の提供などの協力申し出、留学生関係業界からの売り込み、留学生相手のバイト紹介、また本来は東外大の業務である入学相談などを持ち込んでくるケースなど、さまざまです。

件数も増加しており、E-mail は当会と外部を結ぶ接点として、重要な存在となっています。

2-4 鎌倉旅行を楽しみました

3 月 14 日（日）に開催した恒例の鎌倉見学ですが、円覚寺、鶴岡八幡宮、長谷寺、大仏、鎌倉文学館を見学し、天候にも恵まれ、楽しく春の一日を過ごすことができました。

今回も鎌倉在住の会員の方々・東外大の卒業生の方々にご協力いただき、コースや昼食場所の選定に、史跡での説明、列の前後での誘導と、すっかりお世話になりました。先頭に掲げられた大きなオレンジ色の旗のおかげで、お土産屋さんのぞいたりして、遅れがちな留学生も迷子にならずにすみました。

さらに今回は、当会の会員で、東外大の近くで不動産屋を営んでいる、野呂さんご夫妻も参加されました。当会の会員は東外大の関係者が大半ではありますが、だんだんと近隣住民の方々の入会も増えています。こうして近隣住民の方々と交流を持つのも、留学生にとっては貴重な体験です。ご近所の会員の方々（もちろんその他の会員の方々も！）、どうぞ当会のイベントにお気軽にご参加ください。支援の会連絡室も、ぜひご見学ください。

今回ご協力いただいた松本さんから、感想文をお寄せいただきました。また、留学生の一口感想、李英淑さんの感想文も合わせて掲載してありますので、どうぞお楽しみください。

早春の一日を鎌倉で

松本惣蔵さん（英米語学科昭和 34 年卒業）

今日、3 月 14 日は、昨年に続き、留学生の皆さんと鎌倉の散策を楽しむ日。起きた時からルンルン気分、早々と家を出て午前 9 時には集合場所の北鎌倉駅に到着。快晴の日曜日とあって円覚寺の

入口付近にはすでに2、3の団体が集まっていました。さっそく目印の旗の準備。やがて野中氏ご夫妻が観光案内図を持参、菅原・浅野両女史も一緒にこれをクリアホルダーに入れる。ガイドの望月和彦さんも到着。今回は外語会報の鈴木一正さんに写真を撮ってもらえるので心強かったです。

この留学生支援の会主催行事の主役は、留学生のみなさん。三々五々連れ立って歩き回ったり写真を撮ったりして、いかにも楽しそうでした。当方と年齢に開きがあるせいか相手が幼稚園児に見えないこともない。この行事では見物先の数よりも各々の見物先で過ごせる時間が長いことの方が大事なのでは、と考え、野中さんと相談した結果、鶴岡八幡宮、高德院（大仏）、長谷寺、鎌倉文学館で過ごす時間を昨年より長くしました。帰路、鎌倉文学館から鎌倉駅まで望月さんの案内で静かな住宅街のそぞろ歩き。「鎌倉に来てよかった」ことを実感しました。そして留学生の皆さんだけの自由時間は午後5時の散会后。小町通りでのショッピングはどうだったでしょうか。

留学生の感想

ベトナムからの留学生

私は初めて鎌倉へ行きました。風景がとてもきれいでした。鎌倉のお寺も面白かったです。いろいろなことを見て、いい勉強になりました。日本の案内人と話すのはとても楽しかったです。昼ご飯がおいしかったですし、天気もよかったです。一日中、歩いて疲れましたが、本当に楽しかったです。完璧な旅だったと思います。

韓国からの留学生

鎌倉は三方は山に囲まれ一方は海で、守りやすく敵が攻めにくいという地形で、京都に対抗して関東の武士を支配しやすかったから武家政治の中心地になったという。このような興味深い説明をOB会の方々から聞き、より深く感じる事ができた鎌倉旅行になった。やさしく案内してくださったOB会の方々に感謝したい。

中国からの留学生

歴史を感じながら、春の鎌倉を訪れることができて、すごく嬉しかったです。弥勒大仏とも仲良く写真を取りました。いい思い出になりました。東外大に入学してから、留学生課と留学支援の会の方々にいろいろお世話になりました。

心から感謝しております。どうもありがとうございました。

今日で、東外大での勉強が終わりましたが、これからも皆様からいただいた熱烈な応援を原動力にして、研究を続けて、日本での生活をもっと充実していきたいと思います。

ブルガリアからの留学生

今日は素晴らしい一日を過ごした。ボランティアの人たちにいろいろなところを案内していただき、とても面白かっただけでなく、日本の習慣や伝統の勉強も出来たと思う。今日は、日本に来てから初めて、日本の古い歴史の流れに接触し、日本の文化を味わった気がする。

一番よかったところは、とても判断できない。というのは、円覚寺も、長谷寺も、鎌倉文学館も、それぞれから、いろいろな新しい知識が得られたと同時に、それらの美しさや独特の雰囲気にも感動もしたからである。

これからも、こんな旅行に参加させていただけたら、とても嬉しくてありがたい。また、今日お会いしたボランティアの方々にも、新しく友達になった、今まで知らなかった東外大の外国人の学生たちにも会うことを期待している。

オーストラリアからの留学生

本当によかったです。本当にいい勉強になったと思います。日本の歴史を学ぶことは、私にとってとても面白くて、大切なことです。一番好きな場所は長谷寺でした。長谷寺には日本の本質的なものを感じました。招待してくれてどうもありがとうございました。

春の鎌倉を訪ねて

李英淑さん（中国、大学院1年生）

今回の鎌倉見学に参加してとてもよかったと思っています。本当に楽しかったです。

円覚寺、亀が谷坂切通し、鶴岡八幡宮、大仏、長谷寺、鎌倉文学館それぞれが、独自の特徴と美しさで私の心と目を潤わせてくれました。

今回はただ目で楽しむのではなく、ガイドの望月さんによる、ピカソのような絵とおっしゃった、ご自作の絵つきの説明もあって、鎌倉に対する知識も増えました。

中でも何が一番良かったと言えば、鶴岡八幡宮で行われた日本の伝統的な結婚式でした。生

で見るのは初めてだったし、予期しなかった風景だったから、その感動が大きかったのかもしれないが、本当にわくわくしながらシャッターを押しました。もっと面白かったのは、私たちが八幡宮を出ようとしたところ、源氏池のところでちょうど新郎新婦と親戚たちが、記念写真を撮っているところを、私たちも一緒に入って撮ったことでした。留学生の一人がその行列に入っているのを見て「あら」と思って、その雰囲気を読んだ新郎新婦も笑顔、回りの皆も笑っていたし、一人のおじさんが留学生たちの心を分かったか「大丈夫、大丈夫、入って、入って」と言ってくれ、私も瞬間、何も考える余裕もなく走っていきました。早速私のカメラを渡して撮ってもらったが、撮れてなかったです、残念。

なんてバカなことをするのかと思われるかも知れないが、観光先だからこそ、留学生であったからこそ、ありえた風景だったのかなと思うと、恥ずかしいと言うよりもうれしい気持ちです。結婚の喜びを分かち合えたのかな？！（自問自答）。その新郎、新婦もきっと幸せになるでしょう。お幸せに！！

さて、次に印象深かったのは長谷寺です。境内は本当にきれいでした。春を彩る花々（木蓮、三桠、寒緋桜など）、緑豊かな日本風の庭園、疲れた足を休ませながら海も眺められ、本当に心が安らぐ時間であり、空間でもありました。

鎌倉は中国の文化と日本文化の融合だといっても過言ではないでしょう（正しいかどうか分からないが）。神社とお寺が仲良く同じ境内にあって、各々の意味をもっている。当時は日本が中国文化の受信国であって、今は先に近代化が進み先進国としての日本の文化、技術が中国に送信されている。本当に神社とお寺のように仲良くお互いに受送信しながら真の友好を築いてほしいと願っています。

また鎌倉にいきたいです。留学生支援の会の皆様、本当にありがとうございました。心から感謝しています。

3. これからの活動

ブックバザー開催 ご協力をお願いします

毎年好評のブックバザーを東外大にて6月25日(金)に開催します。留学生のために本をご提供頂ける場合は、6月21日(月)までに、「ブックバザー用」と明記の上、下記までお送りください。

なお、送料はご負担頂けますようお願い申し上げます。

留学生に特に人気があるのは、辞書、語学・日本事情関連の書籍、代表的な日本文学作品、子供向けの絵本や英語の書籍などです。皆様のご協力をお願い申し上げます。

送付先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学留学生課

Tel: 042-330-5183 or 5185

4. 幹事会

平成16年度第1回幹事会 4月18日(日)

平成16年度第2回幹事会 5月15日(土)

☆☆☆ 留学生の投稿 ☆☆☆

二人の留学生の投稿をご紹介します。まず、緊急貸付基金へのお礼です。皆様からのご寄付のおかげで、たくさんの留学生がこの基金に助けられ、感謝の声も数多く寄せられています。今回は張至強さんのお礼の投稿をご紹介します。

もう一つは、静岡県沼津市の長興寺でホームビジットを体験した群英さんの体験記です。長興寺のご住職、松下宗伯さんは当会の会員で、昨年もホームビジットを受け入れてくださり、会報14号にその感想を「初めてのテンプルビジット」としてお寄せくださいました。群英さんは中国の重慶出身で、同郷の留学生、夏夜さんと共に、3月にホームビジットを体験しました。

☆☆☆ 人手不足です！ ボランティア募集中 ☆☆☆

ボランティアを募集しています。条件は、(1) 月1回程度(土曜もしくは日曜)、府中キャンパスもしくは本郷サテライトでの会合に出席できる方、(2) Eメールの送受信ができ、パソコンで、ワード、エクセル、アクセスの少なくとも1つを操作できる方。関心のある方は、お気軽に当会までお問い合わせください。

緊急貸付基金貸与へのお礼

張至強さん（台湾 博士課程前期 2 年）

博士課程前期 2 年の張至強です。現在言語文化コースに所属していて、「日本語の漢語動詞について」勉強しています。

私は普段アルバイトをして、留学生生活を維持しています。一昨年、大学院入試の準備のために、アルバイトを控えて、受験勉強に専念しました。お陰で、無事大学院に合格しました。しかし、合格の喜びと同時に、入学金と授業料の悩みも生じました。免除の申請をしましたが、授業料は半額免除になって、自分の貯金で授業料の一部を何とか支払えました。しかし、入学金の免除ができなくて、自分の貯金も底をつきました。支払いの期限は一日一日せまってきましたが、全く為すすべがなかったです。

この時、支援の会に相談しに行って、「緊急貸付基金」という制度があって、入学金や授業料の支払いに困窮している留学生に貸付していると聞きました。希望が再び沸き、早速手続きをしに行って、会長さんに事情を話したら、こころよく貸してくださいました。

これによって、日本での留学が続けられ、日本語の教師になる夢にも一歩近づきました。

支援の会の皆さんに、心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございます！

伊豆半島、箱根をめぐる三泊四日の旅

群英さん（中国 日本課程共同研究員）

一ヶ月前に旅行の計画を立てた。東外大留学生支援の会の宮田さんのご紹介で、静岡県沼津市にある長興寺の和尚さん、松下宗伯様と連絡を取った。松下様は東外大の卒業生で、母校の留学生たちに何かしてあげたいという、親切な方だそうである。つまり、私たちの大先輩だった。今度は私たち二人をお寺に泊めてくださるということである。もともと 23 日出発で 25 日に戻ってくる予定だったが、25 日は箱根ホテルに泊まるという松下様のご提案で、ゆとりのある四日旅行になった。

23 日昼ごろに家を出て、午後 4 時 20 分に原駅に着いた。松下様が車で駅までお迎えにいらしていた。

優しい顔をされた小柄の和尚さんで、ちょっと

接したら、陽気で親しみやすい方だと感じた。

私たちの住まいは、お風呂もあるし、台所も整った 20 畳もある広い部屋だ。部屋の前には広くてきれいな庭がある。食事は自炊だというけれど、台所にコーヒー、ケーキ、果物など出してくださった。奥様から台湾の粽も餃子もいただいた。とても温かいもてなしである。

24 日は伊豆半島中部にある修善寺温泉街を見物した。山に囲まれている伊豆最古の温泉町だと言われたとおり、湯煙に包まれた情緒豊かな町である。温泉街の両側に緑の山が迫り、その谷間を桂川が流れ、旅館やホテルはこの流れの両側に軒を並べている。憩いのあるところである。

観光ガイドのパンフレットを頼りにして、指月殿、修善寺などを見物した。修善寺は弘法大師空海が大同 2 年（807 年）に開基したと伝えられる古寺。源頼家が幽閉され非業の死を遂げた源氏歴史絵巻の舞台だと言われ、多くの文人墨客に愛され、名作が残された古寺である。残念なことに、本堂は修繕のため、内部を見学できなかった。

「虹の郷」という公園も散策した。自然と美しい花の園というテーマパークである。イギリス村、カナダ村、フェアリーガーデンの村、日本庭園、伊豆の村からなっている。それぞれが特色のある村で、どれも美しい。伊豆の村で、テレビでもよく紹介される鮎の塩焼きを味わった。店のご主人は三代目で、魚さばきの腕利きの方である。焼いた魚はきれいに骨が取られている。特製の味噌をつけて食べた。美味しかった。

虎溪橋のたもと近くの「はこの湯」という名湯に入った。浴槽も壁も床も天井も桧を用いた立派な造りで、質素ではあるけれど、大自然に溶け込むような最高の気分だった。温泉から出て、入口にある、修善寺を愛した夏目漱石の漢詩にちなんだ仰空楼に登ってみた。上から町全体を見下ろし、その古い温泉街の雰囲気を楽しみ感じた。

25 日は朝早く起きて、ゴミ捨て場を見学に行った。日本では今、ゴミを各家庭が分類して出すことになっている。話によると、沼津市民は 30 年前から、ゴミの分類を始めたそうだ。つまり、日本で一番早かった。今も市民たちの誇りになっているようである。ゴミ問題は現代社会が抱えている大問題である。特に人口の多い中

国では、今から重視しなければならない問題であると思う。日本のいい経験を学んで、遠回りをしないようにすればいい。

9時50分に奥さんにお別れを告げて、二泊したお寺をあとにした。懐かしく思う。今日は松下和尚さんが、箱根を案内してくださる予定である。

箱根の名所である関所を見学し、歴史に触れた。また箱根神社、九頭龍神社などの史跡へも足を運んだ。

芦ノ湖の湖畔にしばらく足を止めた。鏡のようにきれいな湖面に色鮮やかな海賊船が静かに滑っている。ほとんど人の姿が見えない。霧に包まれた遠い山にきれいな湖面、心が静まる。大自然の魅力に強く引き付けられたようである。夜は松下和尚さんからいただいた招待券で、お金は一銭も要らずに、五つ星の箱根ホテルに泊まることができる。幸せな気分だった。三人は一階の喫茶店でコーヒーを飲みながら、窓越しに芦ノ湖を眺め、いろいろお話に花を咲かせた。

いよいよ松下和尚さんとお別れだった。なんとなく感謝の気持ちを表せるか、分からなくなった。このときこそ、言葉が足りないと感じた。

夕方、恩賜箱根公園に行った。霧雨の中の散歩、気持ちがいい。広い公園の中、私たち二人きりだった。まるで、私たちの貸切公園のようだった。

26日は大涌谷を見物する予定である。9時半に海賊船に乗り、箱根町をあとにした。湖岸の景色を眺め、芦ノ湖を鑑賞した。思わず、西湖を詠んだ漢詩が思い出された。桃源台でロープ

ーウェイに乗った。空から芦ノ湖を俯瞰した。本当に山紫水明で、風光がすばらしいところである。

大涌谷に到着。その雄大さに感心した。大自然からいただいた恵みだと思う。あちこち湯気が立っている。硫黄の匂いがする。名物の黒卵を食べた。延寿卵と呼ばれている。一つ食べると5歳、二つ食べると10歳、と言われた。とりあえず、今度は10歳延ばそうと二つ食べた。とはいえ、生きている限り、いろいろと人生を楽しんで、健康的に、楽しく生きていけたら何よりだと思っている。

ロープウェイで、早雲山まで。そこからケーブルカーで強羅へ。まだ早いから、すぐに箱根鉄道には乗らずに、この足で強羅を散歩した。山道の散策も魅力たっぷり。人の姿が見えない山道を悠々と歩いているリュック姿の二人の女性。いさましいと思わない?! 第一目的地は彫刻の森美術館である。次は小涌谷である。緑豊かな山間に点々と屋根を出している旅館、やさしく通り抜けた山風、もう言葉では言えない、さわやかな気分だった。

小涌谷で箱根鉄道に乗った。山を縫って曲りくねった鉄道は、森へと延びていく。目の前は緑の世界だった。

旅が終わった。すばらしい思い出ができた。

これからの人生の旅でも、いろいろな人とさまざまな風景と出会えると信じている。

人生の旅を歩んでいる途中、親切にしてくださったり、助けてくださったりした皆様に、深く感謝すると共に、頑張っていきたいと思う。

☆☆☆ ご意見・投稿募集 ☆☆☆

当会へのご意見、ホームビジット、当会のイベントに参加しての感想文など、会報への投稿もお待ちしております。

8ページ以降の添付資料（昨年度の事業報告、本年度の事業計画(案)）などへのご意見、ご提案などもお寄せください。

平成 15 年度事業報告

東京外国語大学留学生支援の会

A. 支援事業

1. バザーを開催

- (1) ブックバザー（書籍を無償提供 カンパを募る）
 - 日 時 平成 15 年 6 月 27 日(金) 12:00～15:00
 - 場 所 東外大研究講義棟 1 階ガレリア
 - 書 籍 約 5,000 冊 （会員・大学関係者・地域住民 75 名より提供していただく）
 - 来場者 約 420 名
- (2) 総合バザー（日用品・衣類を廉価提供、書籍を無償提供）
 - 日 時 平成 15 年 11 月 23 日（日）14:00～16:00
 - 場 所 東外大研究講義棟 1 階ガレリア
 - 日用品・衣類点数 約 5,000 点
 - 書 籍 約 4,500 冊
 - 来場者 約 500 人

2. 入院見舞金を支給

入院 5 日以上の留学生に見舞金を合計 8 人に支給。

3. 「留学生緊急貸付基金」を貸付

「留学生緊急貸付基金」より、入学金、授業料等の支払いに困窮している留学生に貸付。
貸付件数 47 件 貸付合計金額 3,406,400 円

B. 友好交流事業

1. 見学行事をおこなう

- (1) 国会議事堂・江戸東京博物館見学とちゃんこ鍋会食
 - 日 時 平成 15 年 10 月 26 日（日）13:00～19:00
 - 参加者 留学生 24 名、日本人学生 3 名、幹事等 7 名、合計 34 名
- (2) 大相撲初場所千秋楽の見学
 - 日 時 平成 16 年 1 月 25 日（日）14:00～18:00
 - 参加者 留学生 57 名、幹事・教職員 9 名、合計 66 名
- (3) 鎌倉史跡の見学（鎌倉在住の会員の方々のご協力による）
 - 日 時 平成 16 年 3 月 14 日(日) 9:00～17:00
 - コース 円覚寺、鶴岡八幡宮、大仏、長谷寺、鎌倉文学館など
 - 参加者 留学生 27 名、幹事 4 名、会員 3 名、鎌倉在住の会員や東外大卒業生など 7 名、留学生両親 2 名、合計 43 名
- (4) 府中市サントリー・ビール工場見学（協賛会員の五十嵐脩介さんのご協力による）
 - 日 時 平成 15 年 7 月 28 日（月）12:00～14:00
 - 参加者 留学生 22 名、日本人学生 2 名、幹事等 6 名、合計 30 名

* 学生以外は自費参加。

2. 第 3 回留学生写真コンテストを開催

日 時 平成 15 年 11 月 23 日(日) 14:00～16:00
 テーマ 留学生が見た日本
 応募 18 名、47 作品
 展示・投票 東外大研究講義棟 1 階ガレリア

入 賞 1 等 1 名、2 等 2 名、3 等 3 名、参加賞全員

3. 東外大国際交流事業に協力

- (1) 留学生国際交流懇親会を東外大と共催
日 時 平成 15 年 12 月 19 日（金）18:00～20:00
場 所 東外大大会館
参加者 留学生 250 名、日本人学生 100 名、その他 50 名、合計約 400 名
- (2) 東外大の日本の伝統文化交流事業に協力
日 時 平成 15 年 12 月 19 日（金）13:00～17:00
協力内容 華道、茶道、書道、将棋

4. 会員等の協力による友好交流

- (1) 会員のご協力によるホームビジットの受け入れ
受け入れていただいた会員 18 名
訪問した留学生数 84 名（延べ人数）
（6 ヶ月、1 年間のホームステイ 2 件も含む）
- (2) 協賛会員の五十嵐脩介さんが留学生を寿司パーティに招待
日 時 平成 15 年 12 月 1 日（月）18:00～20:00
参加者 留学生 22 名、幹事 2 名
- (3) 中嶋会長が新年に留学生をご自宅に招待
日 時 平成 16 年 1 月 2 日
参加者 70 名

5. 「支援の会連絡室（留学生よろずコーナー）」の開設・活動

- ・開 設
東外大研究講義棟 1 階国際交流情報資料室の半分を、「支援の会連絡室」として、平成 15 年 4 月 21 日より利用させていただいている。開設は、月曜～金曜 12:30～16:00（夏期休暇など授業が無い期間は閉室）。利用学生数 延べ 783 名
- ・活動内容
相談対応、日本人学生との交流、生活用品の提供、華道・囲碁・将棋・茶道・書道・テニス・ギター教室の開講。

C. 広報事業

1. 広報資料の刊行

- (1) 「支援の会会報」誌を刊行
第 13 号 平成 15 年 6 月 3 日
第 14 号 平成 15 年 11 月 4 日
第 15 号 平成 16 年 2 月 20 日
- (2) 「東京外語会会報」誌に投稿、掲載して頂く
第 98 号 平成 15 年 6 月
第 99 号 平成 15 年 10 月
第 100 号 平成 16 年 2 月

2. ホームページの内容をリニューアル

平成 15 年 4 月から、ホームページの内容を一新、拡充。
アクセス数 6,346 件 掲示板への投稿数 105 件 （平成 16 年 3 月 31 日現在）

3. 会員募集活動

- (1) 東外大新入生父兄に会員募集資料を配布。
- (2) 平成 15 年 6 月 28 日開催の東京外語会総会に出席して、入会を要請。
- (3) 「東京外語会会報 99 号」を会員に発送する際に、支援の会入会のための振込用紙も同封していた
だき、入会をお願いした。

D. その他

1. 幹事会の開催

第 1 回	平成 15 年	4 月 20 日
第 2 回		5 月 25 日
第 3 回		6 月 22 日
第 4 回		7 月 21 日
第 5 回		9 月 14 日
第 6 回		10 月 18 日
第 7 回		11 月 22 日
第 8 回		12 月 7 日
第 9 回	平成 16 年	1 月 18 日
第 10 回		2 月 15 日
第 11 回		3 月 27 日

2. 会員数

626 人（平成 16 年 3 月 31 日現在）

平成 16 年度事業計画(案)

東京外国語大学留学生支援の会

A. 支援事業

1. バザーの開催

- (1) ブックバザー（書籍のみ、平成 16 年 6 月 25 日(金)）
- (2) 総合バザー（日用品、衣類、書籍 平成 16 年 11 月 外語祭期間中）

2. 入院見舞金の支給

入院 5 日以上留学生に、1 人 1 万円、約 10 名

3. 「留学生緊急貸付基金」の貸与

原則として 1 件 10 万円まで、約 50 名

4. 支援の会奨学金の支給を開始

私費留学生 1 人に 1 ヶ月 5 万円の奨学金を半年間支給する。

B. 友好交流事業

1. 見学行事の開催

- (1) 国会議事堂・江戸東京博物館の見学とちゃんこ鍋会食（平成 16 年 10 月、留学生 25 名）
- (2) 大相撲初場所の見学（平成 17 年 1 月、留学生 40 名）
- (3) 鎌倉・江ノ島見学旅行（平成 17 年 3 月、留学生 25 名）

2. 第 5 回留学生写真コンテストの開催

平成 16 年 11 月 外語祭期間中

3. 会員等の協力による友好交流事業

- (1) ホームビジットの受け入れ
- (2) 「支援の会連絡室」での事業
 - ・留学生相談、留学生と日本人学生との交流、各種教室の開催（華道、茶道、将棋、書道、ギター）

4. 東外大国際交流事業への協力

- (1) 留学生国際交流懇親会を東外大と共催（平成 16 年 12 月）
- (2) 東外大の日本の伝統文化交流事業に協力（平成 16 年 12 月）

C. 広報事業

1. 『支援の会会報』誌の刊行

第 16 号（平成 16 年 6 月）、第 17 号（平成 16 年 11 月）、第 18 号（平成 17 年 2 月）

2. 『東京外語会会報』誌への投稿

第 101 号（平成 16 年 6 月）、第 102 号（平成 16 年 10 月）、第 103 号（平成 17 年 2 月）

3. ホームページの運営

4. 会員募集事業

平成 15 年度一般会計収支報告 平成 14 年 4 月 1 日～平成 15 年 3 月 31 日

《収入》

科目	項目	決算額	摘要
前年度繰越金		1,362,261	
会費	会員	1,397,000	
	協賛会員	20,000	
バザー収益/カンパ		220,849	
寄付	一般	1,389,000	
	緊急貸付基金	356,000	
その他		10,933	利息、多磨駅前サンマ売上金など
収入合計		4,756,043	

《支出》

科目	項目	決算額	摘要
活動費	友好・交流事業費	801,888	懇親会、史跡見学、日本文化体験など
	支援事業費	216,604	バザー開催、入院見舞金など
	活動費小計	1,018,492	
運営費	通信費	198,690	会報発送、プロバイダー使用料など
	ホームページ開設・管理費	270,000	
	消耗品費	166,687	会報・封筒・振込用紙印刷費など
	会議費	2,824	
	郵便振替手数料負担分	37,790	
	支援の会連絡室運営費	56,346	留学生アルバイト代、開設パーティなど
	運営費小計	732,337	
その他備品		295,800	簡易舞台購入
緊急貸付基金		966,000	一般寄付からの 610,000 円を含む
予備費		0	
支出合計		3,012,629	

収入合計 4,756,043 円 － 支出合計 3,012,629 円 ＝ 1,743,414 円（平成 16 年度へ繰越）

平成 16 年度一般会計予算(案)

《収入》

科目	項目	予算額	摘要
繰越金		1,743,414	
会費	会員 協賛会員	1,350,000 20,000	3,000 円×450 名 20,000 円×1 名
バザー収益/カンパ		250,000	
寄付	一般 緊急貸付基金	100,000 300,000	
その他		10,000	
収入合計		3,773,414	

《支出》

科目	項目	予算額	摘要
活動費			
<u>友好・交流事業</u>	懇親会費 史跡見学費 日本文化見学費 日本文化体験費	200,000 100,000 400,000 150,000	大学との共催 鎌倉 大相撲、国会議事堂・江戸東京博物館 華道、茶道、将棋、書道、ギター教室
<u>支援事業</u>	バザー・写真コンテスト開催 入院見舞金 支援の会奨学金支給費	100,000 100,000 300,000	10,000 円×10 名 50,000 円×6 ヶ月×1 名
	活動費小計	1,350,000	
運営費	通信費 ホームページ運営費 消耗品費 印刷費 会議費 郵便振替手数料負担分 支援の会連絡室運営費	200,000 153,600 50,000 150,000 5,000 40,000 50,000	会報郵送費等 管理費およびプロバイダー料金 会報等印刷費、コピー代
	運営費小計	648,600	
緊急貸付基金		300,000	
予備費		1,474,814	
支出合計		3,773,414	

平成 15 年度特別会計報告

(平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月)

留学生緊急貸付基金総額 2,566,000 円

(平成 16 年 2 月に、同基金への寄付 356,000 円および一般寄付から 610,000 円の、総計 966,000 円を本基金に繰り入れた)

貸付総額 3,406,400 円

貸付件数 47 件

貸付理由 授業料 9 件

生活費 18 件

医療費 5 件

その他 15 件 (奨学金受給までの繋ぎ金、引っ越し費用等)

貸付残高 1,593,000 円

東京外国語大学留学生支援の会会報

第 17 号 2004 年 11 月 5 日

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課

Tel : 042-330-5183 or 5185 Fax: 042-330-5189

E-mail: is-tufs@nifty.ne.jp

URL : <http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>

1. 事業報告・事業計画の概要

会長 中嶋洋子

爽やかな季節になりました。会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

さて、早速ですが、前号でお知らせしましたように、平成 16 年度の当会事業案、予算案に関して会員の皆様からご意見をお待ちしましたが、特にご異議は届いていませんので、ご承認頂いたものとして活動を進めてまいります。何人かの方から励ましのお言葉をいただき、大変ありがたく、幹事一同、一層身を引き締め努力していく覚悟でいます。どうぞ、今後とも良きアドバイスをお願い致します。

平成 16 年度の事業は一部既に実行に移されております（これらのことについてご異議があれば来年度に活かして参ります）。ブックバザー、ホームビジット、ビール工場見学（P.3～6 参照）など、どれも留学生に好評でした。秋以降は恒例の日常品バザー（ブックバザーを含む）、年に一度の懇親会、国会見学・江戸東京博物館見学など事業が目白押しに計画されております。物品の提供、各種イベントへのご参加など、いろいろと御協力を賜りたいと思います。ホームページは常に更新され、最新の情報が提供されています。ご利用下さい。

(URL:<http://homepage3.nifty.com/is-tufs/>)

当会にご承知のとおり、一般会員（年会費 3,000 円）と協賛会員（年会費 20,000 円）をもって構成されております。かねがね協賛会員の加入を一般会員と併せ勧誘していきたいと思っておりましたが、力不足で勧誘活動ができませんでした。ところが、世田谷にお住まいの OG の菊池雅子さんが、お二人目の協賛会員になって下さいました。また、菊池さんのご主人が、本学の日本語学科で教えていらしたご縁で、11 月からご自宅の離れを留学生に提供して下さいることになりました。お世話になることになった留学生は、これで住まいを心配せずに、勉強に専念できると大喜びしております。菊池さんには心からお礼を申し上げます。

幹事会では、現在、協賛会員の増加に力を入れようと計画をたて、審議し始めたところです。

幹事といたしましては、かねがね、緊急貸し付け基金に加え、留学生への奨学金給付を実現したいと考えておりました。その基金として、まずは 50 人の協賛会員加入（100 万円）を目標にしたいと思っております。この点につきましても、皆様のご協力（企業などへのご紹介、勧誘を含め）をお願い致します。

☆☆☆平成 16 年度会費納入とご寄付のお願い☆☆☆

☆ 会員の方には、これまでの支援の会の活動へのご協力、ご支援をいただき、ありがとうございます。

実は、10 月 15 日現在、会費を納入して頂いた方が、会員数の半数に達しておりません。

今後の活動をスムーズに運営していくためにも、同封の振替用紙にてお振り込み下さいますよう、お願い申し上げます。（10 月 15 日までにお振り込みいただいている方は、封筒の宛名ラベルにその旨が印刷されています。） 会長の報告にもありますように、今後、支援の会の活動の拡大を考えておりますので、ご寄付の方もよろしくお願い致します。

2. 留学生支援の会初の奨学金授与者、 日本課程3年の辛永傑さんに決定。 おめでとうございます！！

会報16号でお知らせしました、支援の会奨学生の募集について、幹事会で募集要項を検討しました。そこで、21世紀に生きて「私はこう思う」というタイトルで、学部留学生を対象に「奨学エッセイ」を募集することにいたしました。初回にもかかわらず、15名の応募があり、顧問、幹事からなる審査委員会で審査した結果、中国国籍の辛さんが選ばれました。辛さんには、10月から3月の半年間、毎月5万円の奨学金が授与されることになります。

以下に、辛さんの応募エッセイを掲載しました。残り14名の留学生についても、それぞれ、日本に留学して経験したさまざまな思い、現在感じていること、将来の抱負、夢などをしっかり述べていました。特に、今回はその中から佳作5名を選出し、5千円を授与することにいたしました。

私はこう思うー「可能性の花」を 咲かせてあげたいー

日本課程3年 辛 永傑

「学校に行きたい」これが私の心を大きく揺さぶったテレビ番組だ。その番組は、イラク戦争によってすべてが失われた子供たちが描かれている。爆弾攻撃や自爆テロによって両足を失われた子供、悲惨に破壊された家屋と学校、、、男の子は涙ながらに「学校に行きたい」と切なく語っていた。けれども彼らが教育を受け、それを生かせる環境は整っていない。それを見て、“なんと痛々しく悲惨なことか”、“同じ地球に住んでいてもまったく違う環境”。これが私の最初の感想一同情だった。

しかし同情だけでいいのか。私は幸せなのか、と自分に聞いた。私は平和な国で生まれ育ち、グロー

バル化が進む中、日中交流の波に乗って来日し、素晴らしい学習環境に恵まれながら日々充実した生活をしている。そんな人たちの存在を考えず、盲目的にこんな時代に生きていてよかった、幸せだなと感じていた自分が情けなく、恥ずかしく思った。

多くの人々が戦争、食糧不足などに苦しんでいる今、先進国などは途上国に食糧問題の解決や医療の充実を図るなど様々な形で、援助を行っている。でも、戦争とテロ、貧しい人々は減っていない。体面を保つための援助、お金や物を与える姿勢だけでは問題解決にならない。では、彼らにとって何が一番必要だろう。私は教育だと思う。一時的な問題解決、現実を回避するための物質提供とは異なり、教育はすべての人に将来への希望を与え、自分たちの力で未来を設計することを可能とするのだ。

教育が一番大事なことだ。しかし、ユネスコの統計によると、世界には教育を受けられない子供たちは、一億人以上いるそうだ。教育不足は、「貧困の悪循環」を招く。私が受けさせてもらった教育で得た「可能性」、その「可能性の芽」は、世界中の子供たち誰もが持っているはずだ。重要なのは、それを開花させてくれる教育がそこにあるかということだ。地球村の一人として協力を必要とする誰かの役に立ちたい。そのために私が今出来ることは、一生懸命勉強し、誰かに必要とされる人間になることだ。私には戦争を止める力、資金援助の力はない。では、私には何が出来るのか。「貧しい子供たちを助ける」ではなく、「子供たちの夢や希望をかなえるための手助けをする」、私の考えは変わった。「かわいそう」というマイナスな気持ちではなく、「自分の力を役立てよう」という前向きな気持ちで国際支援について考える時、もっと自然に、もっと深いところで、世界の人々と理解し合い、共存の道を歩んでいけるのではないだろうか。

今まで、自分のことだけ考えていた私の将来の希望は、霧が晴れた青空のように輝きだした。私は、教育の国際協力、特に海外での教育に携わることを決めた。そのためにはまず、将来に向けての心構えが大事だと思う。今、必要な知識や言語力を、身に

つけるために勉強に励んでいる。そして、常に広い視野を持って、自分と世界と向き合っていると思う、普段の生活の中で色々な国の人との交流を図ったり、海外事情の情報収集をしたりしている。これからどんどん国際化が進み、国際交流と国際協力が盛んに行われるようになるだろう。そんな社会になるからこそ、もっと自分のこと、そして相手のことを理解しなければならないと思う。お互いの文化、習慣、心情を理解し、尊重しあい、仲間になろうとする心から、あふれ出る姿勢も重要なことだから。貧富の差があっても、お互いの人間性の優劣はない。お互いが誠意を持って相手と向き合えば、素晴らしい関係を築くことが出来る。

地球将来、私が関わっていく教育は、国際協力と呼ばれるほど立派なものではないかもしれない。ただ、私なりに多くの子供たちを教え、夢を与え、彼らの「可能性の花」を咲かせてあげたいと思う。小さくとも、その花を支える添え木に、私はなりたい。番組のあの男の子は、戦争でたくさんのものを失っている。その中で一番大事なものは、明日への希望かもしれない。イラクのあの男の子が学校で、明日の希望に目を輝かせる日が来ることを信じたい。子供たちの目が、明日の光を取り戻すためには、明日への希望を持たせるしかない。だから、「学校に行けないから涙を流す」子供たちがいない地球、そして笑顔に満ちた地球になる日が来ることを求めて、文化も言葉も国も超えた人間として、また、真に豊かな心と協力精神を持つ国際人として頑張っていきたい。

心と心を通わせ、互いの発展のために。そして、互いの幸せのために、あなたのために。

なぜなら、私たちは、同じ地球人だから！

☆ ☆☆☆ご意見・投稿募集☆☆☆

当会へのご意見、ホームビジット、当会の行事に参加しての感想等、会報への投稿をお待ちしております。

3. 活動報告

3-1 支援の会連絡室の活動状況

支援の会連絡室がオープンして2年半、前にもお知らせしましたように、連絡室開設により、留学生支援の会の活動が大幅に拡がりました。

ウィークデイは、毎日午後12時半から4時まで幹事が担当を決めて常駐しています。留学生の利用者も増えると同時に、日本人学生も留学生との交流を求めて立ち寄る人が増え、大学の中での国際交流がより進んでいます。

これまで連絡室で実施してきた以下の活動に加え、10月から新たに、尺八が加わりました。

華道教室	金曜日午後
書道教室	金曜日午後
将棋・囲碁	水曜日午後
ギター教室	水曜日午後
尺八教室	火曜日午後

今回は、クラシックギター教室の紹介を、佐々木さんからさせていただきます。

クラシックギター教室紹介

「外語」の美学—若き感性と知性の競演

佐々木日出男（ヒンディー語学科昭和37年卒）

留学生は 明けの明星か
未来を告げ 時代を先駆ける
文化交流の使者か

TUFS クラシックギターのレッスンに
世界各地からの俊英
音楽好きの学生20余名
目を輝かせ集へり

世情は混迷と争いなれば
若き知性と感性は敏感に反応し
天空を駆けるがごとき
ギターの音色と世界の名曲に
利害得失の次元を越え
人の心の広く妙なる世界を求む

応えて立てりプロのギタリスト
お役に立てればと馳せ参ぜり
多摩の地に公民館など10教室

ギター教則本を著す気鋭のマエストロ
「世界のことばを音楽に
乗せて運ぶは外語の使命と」

場所は研究講義棟 国際交流情報資料室
日本の文化のレッスン教室
書道 華道 茶道などに加えて
ギターレッスンも学生の心を満たすか

3-2 ブックバザーを開催しました

6月25日(金)に東外大ガレリアでブックバザーを開催しました。例年同様、会員の皆さん、教職員の方々、近隣住民の方々から寄付して頂いた書籍約5,000冊を留学生、日本人学生に提供しました。今回は、辞書類、美術書、語学書、児童書、研究書、CD等が多く集まり、そのほとんどが、学生たちの手に渡りました。大盛況でした。値段は無料として、任意のカンパをお願いしました。集まったカンパ、41,000円は今後の活動に活用致します。

本、CD等を寄付してくださった会員の皆さん、ご協力をありがとうございました。

＊ ブックバザーをありがとう＊

6月25日のブックバザーは色々な本がそろっていて、誰でももらうことが出来、留学生にとって大変よかった。

私も源氏物語や平家物語、三国志などの文学作品を選んだ。重いけれども、無料でこんなに素晴らしい本が読めて、とっても楽しいと思う。留学生は、日本文化や社会や教育などについてすごく興味があつて、何でも知りたい、勉強したい。でも、コミュニケーション能力をアップするためには、言葉が一番重要だろう。次には、日本文化、日本語教育、言語学習についての本が沢山あれば、勉強にもっと役に立つと思う。

共同研究員 夏夜(中国)

ブックバザーの日は、様々な本を見ました。漫画や文学作品や辞書などを見て、とても面白かったです。私は、「ガラスの仮面」という漫画を選びました。それは、私の日本語の勉強に役に立つと思います。そして、昔からその漫画の話が好きです。このブックバザーは、本当にいいイベントだと思います。ありがとうございました。

ISEP 吳 妙雅(香港)

3-3 ビール工場見学

今年も、8月2日に、府中市郊外にあるサントリー・ビール工場を見学しました。留学生20名、日本人学生2名、当会幹事、会員をふくめて5名が参加しました。参加した留学生たちは、大いに楽しんでいました。以下は学生の感想です。

●ビール工場に行ったのは、初めてだったので面白かった。特に、ビールの92%が水だというのがわかり、興味深かった。この経験は、ずっと忘れないだろう。

ISEP 崔ビンナ(韓国)

●ビールの作り方を教えてもらって、ほんとに面白かった。もちろんビールや素晴らしいプレゼントをもらって、とてもうれしかった。みんな本当に優しかった。

ISEP ダニエル(ドイツ)

3-4 岐阜県の中学生在支援の会を訪問

9月の始めに、岐阜県平田町立平田中学校の国際交流研究グループが、支援の会のホームページを見て、支援の会の存在を知り、支援の会が留学生のためにどのような活動をしているのか、留学生はどういうことを望んでいるのか、日本に留学してうれしかったことなど訊きたいとのことで、訪問を依頼してきました。

9月16日午前10時に、担任の先生と5人の中学生が支援の会の連絡室に訪ねてきました。夏休み期間中でしたが、スーダン、バングラデシュ、中国(2名)の計4名の留学生が参加してくれました。

まず、支援の会の設立目的、活動内容など資料を渡して説明した後、留学生たちが、中学生の質問に答えしてくれました。留学生の意見の中で、特に印象深かったことは、留学生の日本の社会についての意見でした。

日本の若者にもっと自分の国の歴史を勉強して欲しいこと、日本の社会が秩序正しく素晴らしい国だということに気づいて欲しい、また、現在の日本の家庭では、父親の存在が希薄なのか、もっと父親を大事にして欲しい等でした。中学生は、どう感じたでしょうか。

中学生、留学生の双方にとって、意義のある交流の場になったと思います。

以下は中学生からのお礼の手紙です。

~~~~~

拝啓、さわやかな好季節を迎えましたが、皆様には
お変わりなくお過ごしのことと思います。 私たちも元氣
に学校生活を送っております。

さて、先日は突然のお願いにもかかわらず、留学生
の方々のお話を聞かせていただき、ありがとうございました。
おかげさまで、留学生の方々の日本に対する意
見や、国際理解の課題などを見つけることが出来、今
後の総合学習の参考になりました。特に心に残ってい
るのは、留学生の方々と家族について話したことです。
日本の課題、良い点などを学び、私たちの国について
改めて考えることができました。

皆様のご健康と、一層のご活躍をお祈り申し上げま
す。まずはとりあえずお礼まで。

敬具

近藤 明日香

☀~~~~☀~~~~☂~~~~☂~~~~

5. ホームステイ、ホームビジット

受入れ体験記

支援の会では、留学生が日本人家庭に接する機会
がなく、残念だとの声に答えるために、毎年ホームビ
ジットを会員の方々にお願いして参りまして、会報にその体
験談を紹介してきました。以下に、ホームステイとホーム
ビジットの体験談を掲載します。

昨年は、10月入学 ISEPTUFS の留学生のための
宿舎が足りず、ホームステイを会員の佐野さんに依頼し、
引き受けて頂きました。初めての長期ホームステイで、
大変ご苦労なさったと思います。留学生は、アメリカのミ
ルズ大学からの学生でしたが、ホームステイは、とても
楽しかった、佐野さんに大変感謝しているとの言葉を残
して帰りました。 また、オーストラリアのANUの学生の
ホームビジットを引き受けて頂いた中山香織さんからも、
体験談をいただきました。

佐野さん、中山さん、ありがとうございました。

アシーナとの1年

☀~~~~★

佐野祐美子

「アメリカの娘さんですが、半年、ホームステイ
させてください」とのお話しがあった時、初めての
ことでしたので、「私の家でいいのかしら？」と思
いました。支援の会で、留学生さん達に生け花を指
導しに伺った時、留学生課の梅田さんからのお話で
した。

私の家族は、電通をリタイヤした兄と、非常勤で
すが、私立高校で茶道（表千家）、華道（池坊）を
指導している私の2人です。若者には慣れているつ
もりと、人は心だと常々思っておりましたので、英
語が話せなくても、図々しくお引き受け致しました。
部屋は6畳だけど、机を準備したりして、楽しみに
待っていました。 最初の夜、東小金井駅まで、迎
えに行った第一印象は、チョット難しそうな子だと
正直思いました。母親は、中国人、父親はチェロ
ーキーの血をひくとのことで、エキゾチックなちょ
っとインド系かなと思わせる、小柄な娘さんでした。
が、すぐに信頼して、家の鍵を渡して、生活が始ま
りました。

私は、学校その他、家での稽古、支部の行事、地元、
小金井の行事等でアシーナが来宅した9月は、非
常に多忙な時期でした。が、英語が話せないのも、
寂しい思いをさせたくないと、日本人学生のチュ
ーターの京子さんに泊まってもらったり、私の高校に
連れて行ったりしました。

アシーナは、ほんとによく眠る子でした。起こ
さないでよいと、ぎりぎりまで寝ているアシーナ
に、サンドウィッチをつくってバスケットに入れて
おくと、さっとそれを持って外大に行く毎日で、帰
りは図書館で勉強して帰るとのことで遅く、なか
なかコミュニケーションが取れませんでした。

アシーナを含む留学生達は、みんなよく学び
遊んでいるようでした。夜、8時、9時に出かける
のは当たり前、「心配するな」といって出かけ、夜
中に帰ってきてシャワーを浴びる音に安心したり。

夕食が済んで（アシーナの好きなものは、ウナ
ギ、天ぷら、すしで、和食党の我が家は助かりまし
た。）「勉強します。」といって部屋に戻るアシー
ナに、兄が「お休みなさい」と言うと、「ノー、ノ
ー。ほんとに勉強します。」等と、少しずつ打ち解
けて来ました。が、友達とはずいぶんとおしゃべり
するようなのに、家ではさっと部屋に入ることが多

いのです。やがて、兄が3人のスケジュール表を書くように提案して、一枚の紙に一週間分、朝出る時間と、夜帰る時間の予定を書き入れるようにして、夜食事がいらなときは×印を書くようにしました。これは、良いアイデアだったと思います。私が「夜遅くなるので、アシーナの夕食よろしく。」と書いておくと、兄は喜んでアシーナと外食していたようです。19才で来たアシーナが我が家で20才を迎えると思ったら、私の方が張り切って振り袖を着せて、小金井市の成人式に参加させたりしました。2月までホームステイとの約束でしたが、彼女の方から帰国するまで置いて欲しいと依頼がありました。

アシーナとは、京都、会津若松、河口湖へのドライブ等思い出はたくさんあります。でも、一緒に買い物をしたり、食器の片づけをしたり、日常生活の思い出は、まるでありません。ただ一つ、私との共通点は、お風呂が大好きということ。近くのお風呂屋さんにはよく行き、1, 2時間程入って帰ってきました。

せっかくのお茶、お花もわずか数回しか教えることが出来ませんでした。帰国が近くなると、家の稽古の人びとも、「アシーナがとってもかわいくなった。」と表現し、「別の人かと思った。」というご近所の方もいらして、彼女もずいぶん変化したようです。

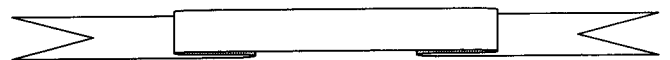
14才からボストン、中国と留学しているアシーナは、深刻なホームシックになることはなかったようですが、「母と弟に会いたい。」と言うことはありました。帰国する前日に、アシーナの友人を呼んでパーティーをしました。20人ほどのパーティでしたが、アシーナの心が留学生達、友人、ボーイフレンドの方に向いていたのがよくわかりました。私が英語に堪能でしたら、もっと心を開いてくれたらと思うと、少し残念でもありました。

アシーナは思慮深い子だったと思います。今の若い子達は、携帯命と言われてますが、彼女は、私と一緒にいる時には、携帯電話を使うことはありませんでした。それが、私には心地よかったです。大きな荷物を持って、成田まで送って行った時は、とっても寂しさを感じました。

が、アシーナの置きみやげでしょうか、その後も、モンゴルや、台湾の子達が遊びに来てくれたり、アシーナのボーイフレンドと電話で話したり、今でもその余韻を楽しんでいます。若い娘さんと一緒というのは、とても華やかで、楽しい一年でした。アシーナに感謝。ありがとう。元気だね。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
「ホームビジット」を引き受けて
山中香織(IM 科平成元年卒・西宮市在住)
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

ホームビジット受入れについては留学生支援の会が設立された時から興味を持っていましたが、子供達が小さいので躊躇していました。この度、宮田様からご連絡を頂き、急遽8月2～4日オーストラリアからの日研生キャサリン・ベイリーさんとその友人ミランダ・ギロンさん(共に23歳)を受入れる事になりました。日研生で日本語も流暢なキャサリンさんは兎も角、ミランダさんは日本語も日本食もあまり慣れていらない様子で心配でしたが、6歳と3歳の子供達の存在が一役買ってくれた形で(共に好奇心をそそったのでしょうか?)、徐々に打ち解けた雰囲気になってゆきました。地球儀を囲んでオーストラリアを探し、コアラ、カンガルーの話に始まり、「リトル・マーメイド」の英語の読み聞かせに至る(どちらがホストなのか!)子供の相手までして頂きました。子供が寝静まってからは、少数民族の話からミランダさんの仕事の話、夫が行政改革の進んだシドニー、ブリスベン市にインタビューに行った話などで盛り上がり、彼女達からは、日本人は改革に後ろ向きで日々疑問を感じずに暮らしているという、辛辣な意見も伺いました。キャサリンさんは、今後ビジネスを学び、オーストラリアの安全な食料品をアピールし、対日貿易を増やしたいと語っていました。彼女達は、京都では寺社を巡り、広島では平和式典にも参加したそうです。私共も、学生時代はアメリカ・イギリス・インドネシアなどでホームステイをさせて頂き、様々な方にお世話になりながら語学の勉強をし、国際理解を深めてきました。いつかその時の恩返しができればと思っていましたので、このような受入れが実現して良かったです。日本に来られた留学生のお役に立てるのは、私共家族の喜びでもあります。今後もこうしたプログラムが発展し、お互いの文化を理解する好機になることを願ってやみません。



3-6 国会議事堂・江戸東京博物館見学会

10月23日(土)、国会議事堂(衆議院)と、江戸東京博物館の見学会を実施しました。見学のあとは、ちゃんこ鍋を囲んで、懇親会を実施しました。詳細は、次号でお知らせします。

4. これからの活動

4-1 留学生支援バザー開催 ～ご協力をお願い致します～

11月21日(日)午後1時～4時、東外大研究講義棟1階にて、バザーを開催します。ご家庭でご不要の、冬物衣料、寝具、暖房器具、自転車、米などの保存食品、生活用品、書籍などのご寄付をお願い申し上げます。

11月19日までに、おそれいりますが、送料をご負担の上、お送り下さい。

バザーでは、外語祭期間中でもありますので、留学生だけでなく、一般来場者の方々にも購入して頂きます。値段は、留学生に対しては生活支援のために格安に、一般の方々には留学生支援活動費として、留学生よりも高値段を設定して販売します。

送付先 (バザー用品と明記してください)

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学留学生課

042-330-5183, 5185 梅田・大武

4-2 留学生との交流の夕べ 12月17日

東京外国語大学では、例年留学生のための国際交流事業を、開催しています。昨年度から、支援の会も、この事業に共催という形で、参加することになりました。今年の日程は、12月17日(金)に決まりました。

この事業は、午後2時から、日本文化を紹介するワークショップ開催ということで、留学生に日本の着物を着てもらうコーナー、墨絵、華道、茶道、伝統的日本の遊び等を体験する教室を設け、日本文化に接する機会を提供し、夜は、留学生との懇親を図る目的で、

「交流の夕べ」を開催する予定になっています。大学では、支援の会の両企画への参画を期待しています。

多くの留学生と懇談する絶好の機会ですので、皆様のご参加をお待ちしております。参加費、開催時間、会場等の詳細は未定ですので、参加をご希望の方は留学生課までお問い合わせください。

5. 幹事会

平成16年度第1回幹事会	4月18日(日)
平成16年度第2回幹事会	5月15日(土)
平成16年度第3回幹事会	6月6日(日)
平成16年度第4回幹事会	7月19日(月)
平成16年度第5回幹事会	9月18日(土)
平成16年度第6回幹事会	10月17日(日)

6. 留学生の声

留学生からの便り

1

今年3月25日、留学生支援の会から10万円お借りしました。本当にありがとうございました。

経済的に非常に困っていた私は、とても助かりました。心から感謝しております。

昨年、修士課程に進学しましたが、学費の支払いには、ずっと困難がありまして、友人に借りたり、バイトで何とか頑張ったりしてきました。結局、体調を崩す結果となってしまいました。途方に暮れた時、支援の会からこのようなサポートをいただき、新に頑張る勇気を与えて下さったことに関して、ここで改めてお礼を申し上げたいと思います。

このような状況は、これからも続くと思いますが、どんなことがあっても、一生懸命に頑張って乗り越えて、学問の研究と生活を両立させていきたいと思っています。今後ともご支援を下さいますよう、心からお礼申し上げます。

中国からの留学生 修士課程2年

☆☆☆ご寄付のお礼☆☆☆

次の方々からご寄付をいただきました。ありがとうございました。(敬称略、50音順、2004/4～2004/10)

浅田幸彦、浅野偕子、浅野尚文、生山祐美子、池田修悟、池永郁夫、池谷貞悟、伊東美千代、伊藤芳郎、内田富美、梅田由美子、榎本昭、大島正勝、大谷達之、片岡護、窪田寿夫、小泉正康、駒井義昭、斎藤美智子、笹岡太一、下田菊美、新堂睦子、鈴木文子、鈴木正道、高浦民男、高木秀雄、田口勝美、田原明、中井資員、中村和子、中村博、中村真理子、古川早紀子、牧野伸昭、松木博之、山本博、疋田妙子、川路由佳

ご無沙汰しています。

この4月から静岡大学に通っています。ずっと連絡しないまま、この手紙に至ってしまいました。ご心配をおかけしてしまい、申し訳ございませんでした。

外語大学では、本当にお世話になりました。ご支援のおかげで、東京での暮らしが楽になりました。

支援の会から貸与された奨学金をまだ返すことが出来ません。やるべきことなのに、その役割をきちんと果たすことが出来ません。感謝の言葉もないし、逆に迷惑をかけてしまうばかりです。

今になっては遅いかもかもしれませんが、そのお借りした、奨学金を返したいです。多額ではありませんが、まずこの金額を、お返し致します。これから毎月、少しずつ送ります。お許し下さい。

それでは、これで失礼します。

インドネシアからの留学生 元研究生

☆☆☆日本での留學生活☆☆☆

博士課程 レ・クウィン・ホン

ヴェトナム

私は、8年前、日本に留学してきました。東京外国語大学において、研究生を経て、博士前期課程、そして、後期課程に進学し、国際関係学を研究しています。8年間の留学生生活を振り返って考えてみると、とても恵まれた環境の下に留学生生活を送ることが出来たと思います。

東京外国語大学は、学生数の3分の1が留学生ということもあり、留学生に対する配慮や制度が手厚いのです。特に留学生課が大きな役割を果たしていると思います。留学生のための窓口であり、留学生の様々なニーズに応えるように努めています。近年、前学長夫人が会長を務める「留学生支援の会」が出来て、留学生の抱える問題をよく掴んでおり、あらゆる面での協

力を惜しまないのです。こんな東京外国語大学で研究活動を行えることは、大変幸せです。おかげで、今まで、大きな問題はありませんでした。

今年3月まで奨学生としてお世話になった、東京海上各務記念財団は、ASEAN 諸国からの留学生を支援しておられます。事務局の方々を始め、各務記念財団は、留学生に対する日常のケアや支援に力を尽くしています。財団が毎月奨学金を1人1人に手渡すことから、奨学生の私たちは事務局に伺い、様々な話や悩みを打ち明けることが出来ます。毎月、事務局の方々に自分の元気な姿、研究成果を報告していくことが楽しみでした。奨学金を単に送金するのではなく、直接手渡すという手間を惜しまない財団の奨学金制度は、とても良い制度だと思います。又、財団は、人的交流の場を作っており、懇親会を開いて、奨学生同志、財団関係者の方々との親睦をはかっています。

日本の大学では、文系の研究がなかなか成果を上げることが出来ない現状にあります。文系の研究のアプローチが様々で、長年にわたる研究を要し、学位取得が難しいのです。日本の学生にとって大変な学位取得の問題は、留学生にとってはもっと厳しい状況になってしまいます。学位を諦めて、就職を選ばざるを得ない例も多いようです。

この問題の解決策はあるのでしょうか。

(前記の原稿は、レ・クウィン・ホンさんが、文部科学省所管の留学生奨学委団体で組織する「留学生奨学団体連絡協議会」が開催した、シンポジウム「より良い留学制度のために」で、4人のパネリストの一人として発言した要旨です。

本人の許可を得て本会報に掲載しました。)

東京外国語大学留学生支援の会会報

第 18 号 2005 年 2 月 23 日

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課

Tel : 042-330-5183 or 5185 Fax: 042-330-5189

E-mail: is-tufts@nifty.ne.jp URL: <http://homepage3.nifty.com/is-tufts/>

* 本年もどうぞよろしくお願い致します。

昨年末には、新潟地震やスマトラ沖の大震災による津波などの自然災害で、多くの犠牲者が出たりで、地球が壊れ始めたのではないかと思うほどでした。

新しい年を迎え、みんなで地球環境のことをもっと真剣に考えなければいけないのではないかと考えています。

会員の皆様は、どのような新年をお迎えでしょうか。今年も昨年同様、留学生に対するご支援をよろしくお願い致します。

1. 活動報告

1-1. 国会議事堂・江戸東京博物館見学・懇親会（ちゃんこ鍋）

今年度はこの企画を 10 月 23 日（日）に実施し、留学生 29 名、幹事 4 名が参加しました。

国会議事堂の見学は、小池百合子環境大臣のご紹介で実現しました。テロ対策もあって、今までより一般見学が難しくなったとのことですが、東外大留学生ならばと、快く引き受けてくださいました。

今回は、昨年の反省にたって、国会議事堂から江戸東京博物館への移動（永田町～市谷～～両国）の切符を纏めて幹事が購入、

更にその代金 310 円を参加費として申しこみ時に徴収してみたのですが、そのためでしょうか、留学生の集合がいつになく大変良好でした。おかげで 6 カ国語で用意された説明書を、事前にゆっくり読むことができました。

さて、一同やや緊張した面持ちで重厚な建物の奥に進み、参議院本会議場の傍聴席に座り、係（衛視）の方の丁寧な説明を聞きました。留学生からいろいろ質問が出ましたが、とりわけ皇室の方々の特別席があること、天皇陛下の開会のお言葉などに質問が集中しました。皇室の存在しない国からの留学生が多いからかもしれません。

次に江戸東京博物館へ移動、留学生たちは 4 ケ国語で用意された説明書を片手に、江戸ゾーン・東京ゾーンを自由に興味と関心の赴くままに館内を見てまわりました。この博物館は、絶えずリニューアルされており、前に来たことがあるという留学生も楽しんでいました。一同みな視覚、聴覚、触覚をおおいに刺激され、充実した見学ができたようでした。

外はすでに日が暮れ、みな疲れ、お腹も空き、最後の楽しみは懇親会です。ちゃんこ鍋を囲み、全員が一言ずつ自己紹介やその日の感想など話し合い、留学生一同すっかりうちとけて歓談しました。

ただ、その最中に地震が（中越地震の日でした）たてつづけに 3 度もあり、異常を

感じ、幹事としては留学生の命に関わることを判断し、残念でしたが早めに解散しました。支援の会としてもこんな時の危機管理を考えておくべきだと痛感しました。来年度の課題としたいと思います。

1-2. 留学生支援バザー

今年も、外語祭期間中の11月21日に、研究講義棟1階にて、恒例のバザーを開催しました。

会員の皆さん、教職員の方々、ご近所の方々から、書籍類、電気製品、家庭用品、衣類など何千点もの品物を送っていただきました。今回は、昨年よりも少し低めに値を付けたので、留学生たちに喜ばれました。おかげさまで、約14万円の売り上げがありました。今回も、留学生が準備や販売、後かたづけなどの手伝いをしてくれました。

以下は、中国の留学生ジョクタルジャさんの感想です。

去年、私の出身大学である青海民族大学に、日本語学科が新しくできました。しかし、できたばかりの学科には、日本で出版された本が不足しているということで、私の恩師から本を集めるように依頼されました。そのことをきっかけに、7月に開催されたバザーの時、20冊ぐらいの本を入手できました。さらに、そのことを知っている梅田さんから頼まれて、11月のバザーを手伝いました。午前11時から、すでに集まった品物を売り場にならべて販売を開始しました。本をはじめ、衣料品など学生向けの物が多かったと思います。バザー当日は、外語祭期間中だったこともあって、入場者はとぎれることはありませんでした。留学生には半額だったので、助かったのではないのでしょうか。私も夏目漱石（岩波書店）の全集と、ほかに15冊ぐらいを入手できて助かりました。集まった本は、3月の初めに郵送する予定です。また、特別な形でたくさんの方々と交流できて、良かったと思います。バザーを体験して、改めて母校の

支援の会の大切さを痛感しました。

1-3. お寿司パーティ

昨年引き続き、「第2回寿司パーティ」が、外語祭期間中の11月22日（月）午後3時から、国際交流会館の補食室で開催されました。この企画は、「日本の伝統料理の一つである、「すし」を留学生に味わってもらいたい」という、当会の協賛会員である五十嵐さんのご厚意によるものです。

当日は、38名の留学生が参加しました。五十嵐さんが握ってくださった「すし」を食べながら歓談。五十嵐さんから「すし」についての解説や、「すし音頭」の披露もあり、和やかな中に、あっという間に予定していた2時間が過ぎました。参加した留学生は、おいしい「すし」をお腹いっぱい食べて満足な様子。今回は、5名の留学生が事前の仕込みにも参加しました。

また、当日は、偶然にも五十嵐さんのお誕生日で、仕込みに参加した留学生たちがお菓子をアレンジして、バースデーケーキに見立てて、お誕生日のお祝いをしました。

あらためて五十嵐さんのご厚意に感謝致します。

以下は、留学生からの感謝の言葉です。

~~~~~

♥ 五十嵐さんのユニークな性格は、印象深く強く心に残りました。面白い歌を聞かせて頂きありがとうございます。最後に、いつまでも今日のように楽しい人生を送ってください。（中国）

♥ 今日のごちそうさまでした。最高においしかったです。このおいしさをインドネシアにいる家族にも味わってもらいたいくらいです。ほんとにどうもありがとうございました。（インドネシア・エロックハリマー）

♥ お寿司はとてもおいしかったです。ありがとうございます。長生きなさるのを望んでいます。（シリア・ハーリド）

♥ 今日のごちそうさまでした。ほんとにありがとうございます。日本でほんとにいい思い出がもう一つできました。今日のパーティは忘れられないと思います。それに、最後にいなり寿司までもらっちゃって、もっと忘れられないと思います。`~`誕生日おめでとうございます。

（韓国・ウ カミ）

#### 1-4. 国際交流の集い

12月17日(金)に東外大のキャンパス内で、留学生のための国際交流事業として、「日本文化交流会」と「国際交流の集い」が開催されました。

今年度も、東外大と当会の共催、武蔵野市国際交流協会後援という形で実施されました。

まず、午後1時より学生会館において、日本の多彩な伝統文化を留学生に紹介し、体験させるための「日本文化交流会」を、それぞれの集会室で実施しました。1. 着物の着付け、2. 茶道教室、3. 墨絵、折り紙教室、4. 華道教室、5. 将棋教室を、当会の幹事・会員を中心に、武蔵野市国際交流協会に協力をお願いし、開催しました。

200名以上の留学生が、それぞれの興味にまかせて、色々な教室を訪れ、日本文化を楽しみました。着物の着付け教室は、いつも人気が高く、着物を着たまま茶道教室でお茶を楽しんだり、写真をお互いに取り合ったりで、できるだけ長く着物を着たい気持ちがとてもよくにじみ出ていました。また、和紙人形、墨絵教室では、できあがった作品を、「国へのおみやげ!」とうれしそうに見せる留学生、将棋、お茶、お花を体験した留学生も、いつになく目を輝かせていました。

文化交流会の午後の時間は、このようにして、あっという間に過ぎていきました。ここでは、参加した留学生も、教える側も楽しい時間を共有していました。

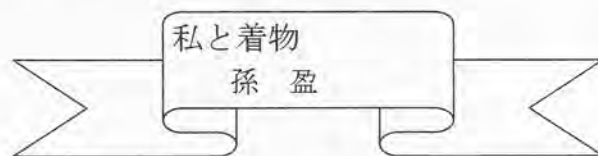
夕方6時からの、「国際交流の集い」の会場である学生会館には、日頃から留学生を支援、協力して下さっている奨学財団、地域住民、教職員、日本人チューター等、留学生を含めて300名近い人々が集まり、交流の輪を広げました。あちこちで、留学生たちは日頃話す機会の少ない人たちとの会話を楽しみ、親睦を深める機会を得ることができ、嬉しそうでした。

パーティ後半の、留学生が司会のアトラクションの部では、留学生たちの踊り、楽器演奏に加え、日本人学生の踊り、支援の会と学生のギター合奏など盛りだくさんで、おおいに会場がもりあがりました。当会によるくじ引きゲームも、賞品も豊富で、会場をわかせていました。

来年は、もっともっと充実した交流事業

が実施できるよう期待したいものです。

以下は、参加した留学生たちからのエッセイです。



中国・日研生

私は、幼い時からいつも日本の映画とドラマを見ました。その頃は、山口百恵さん・三浦友和さんの映画と小泉今日子さんのドラマが、中国でもてはやされていました。女優たちが着物を着ている美しい姿は、いまでもいつも私の胸に浮かびます。

大学に入ってから、私は日本に留学にきました。たまに電車の中で、着物を着ている日本のお嬢さんを見ることが出来ます。私は、毎回、つい、じっと見つめます。日本の着物は、本当に美しいと思います。

去年の12月に、私は偶然留学生掲示板で、留学生が着物を体験出来るイベントを見た時、とてもうれしくて、すぐ申し込みました。

その日、美しい着物を着るためにたくさんの留学生が来ました。私は2時間ぐらい待った後に、やっと着ることになりました。私は赤い着物を選びました。これは着物を着せてくれたおばさん自身のものでした。

30万円位したとのことで、本当に高いですよ。

飛鳥奈良時代には、唐文化の影響を受け、男性の礼服では、聖徳太子像などにみられる衣服に変わりました。着物は日本固有文化として平安時代から開花し、着物も日本の高温多湿の風土に適するように、時代を経るにつれ変化してきました。

日本の着物は、ボタンがありません。全部紐でします。着る方法もとても複雑です。着せてくれたおばさんは、15分ぐらいかかりました。私が着物を着た後、おばさんと先生たち、それに友達が、たくさんの写真を撮ってくれました。いずれ、国に送っ



て母に見せてあげたいと思います。

### 楽しかったパーティ

ルッソ・サマンタ

イタリア ISEPTUFS

私は、生まれて初めて着物を着ました。とても緊張しました。少しきつかったけれど、まるで日本人になったような気がして、とてもうれしかったです。その後、茶道を体験しました。お茶は、クリームみたいでおいしく頂きました。まるで、安土桃山時代にタイムスリップしたみたいでした。着替えた後、和紙を使った人形の作り方を教えてもらいました。上手に出来なかったけれど、楽しかったです。それから、交流パーティに行きました。パーティでは、留学生たちが自分の国の楽器を弾いたり歌ったり、とても楽しかったです。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

★外語大で8年間勉強して思うこと★

★（国際交流の集いで挨拶）★

★ 林紋守 台湾・大学院生★

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

先ほどご紹介いただいた、台湾出身の林紋守と申します。今日は私たち留学生のために、こんな素晴らしい集いを開いてくださり、そのうえ、たくさん美味しい料理まで用意していただいて、ここで留学生一同を代表して、学長はじめ、支援の会の中嶋会長、会員の皆様や先生方、そして留学生課の職員の皆様にお礼を申し上げます。

私が外語大に入ったのは、97年のことです。最初は、外国語学部日本課程に所属し、卒業後博士前期課程に進学して、現在は後期課程1年に在籍しています。思えば、外語大に入ってもうすぐ8年が経とうとしています。この8年近くの外大生活には、様々な思い出がいっぱい詰まっています。今の外大生には、このきれいな快適な府中新キャンパスしか知らない人が多いでしょう。あの巣鴨にある、向かい側の中学校よりも

ボロボロの旧キャンパスは、今振り返ってみれば、何故か懐かしく感じられます。あのキャンパスを経験したからこそ、今、ここにある新しいキャンパスの有難さがしみじみ感じられると思います★。あの、駅よりも汚いと言われたトイレが、今は自動蛇口まで備えた明るいトイレに変身し、あの、夏は汗で、冬はスチームの熱気で暑かった教室が、今は冷暖房完備できれいな教室に変わりました。電車の本数も、キャンパス近辺のお店の数も、相変わらずじゃないかと言いたくなる方もいらっしゃるかもしれませんが、でも、あのような乏しい環境でも乗り越えてきた外大生こそ、今のキャンパス生活を贅沢だと思えるぐらい満喫できるはずです。もちろん、ハードの設備のみならず、ソフトのほうに関しても、特に留学生への支援が、以前よりもっと充実してきています。8年前に比べ、留学生の種類や人数がかなり増加しているなか、留学生課の業務も以前よりいっそう負担が重くなっていると思います。そのような状況の中、99年に設立された留学生支援の会は、なかなかいきなり難しい留学生の生活や暮らしの面における支援をなさってくださったり、また日本人との交流の機会を設けてくださったり、留学生にとっては大変助かります。

今日はこの場を借りて、日ごろから私たち留学生を、勉強の面において指導して下さった先生方や、生活の面において支援して下さった支援の会の会員の皆様や、留学生課の職員さんの方々、そしていつも相談相手になって下さった日本人のチューターさんたちに、心から感謝の言葉を申し上げます。皆様のおかげで、私たちは日本で、そして外語大で、楽しく勉強することができます。本当にありがとうございます。

### 1-5 大相撲一月場所見学

留学生55名、日本人学生2名、支援の

会員5名、合計62名で、大相撲一月場所の千秋楽（1月23日）を見学に行きました。

両国駅を出て国技館に近づくと、場所入りする相撲取りの姿を一目見ようと、大勢の人が群がっていました。車から颯爽と降りてくる大柄な力士を目にすると、相撲気分が盛り上がりわくわくしました。最近の力士には、ハワイ、モンゴル・韓国等外国出身者が多いので、留学生は熱心に観戦し、中には1階まで下りていって間近に取り組みを見た人もいました。

相撲は、スポーツ・儀式・芸術等を総合した伝統的国技ですが、留学生の皆さんがどのように感じたか、以下に感想文を紹介します。

\*\*\*\*\*

#### ※イタリア ジョルジュ(ISEPTUFS)

すごい、すごい、すごい!!! もう一度見に行きたい! 相撲取りの力は、ほんとにはじめて見ましたが、特別だと思いました。みんなほんとにありがとうございました。モンゴルの選手は一番すごかったね。強い精神力ですね。

#### ☆韓国 崔うん碩 (日研生)

今日、日本の国技、相撲を直接に見ることになって、とてもうれしかったです。今までは、テレビでしか見られなかった相撲でしたが、直接見たら、とても臨場感があってほんとによかったと思います。競技場も思ったより広かったし、場内も意外に自由だったので、気楽に相撲を楽しむことが出来たと思います。最後に、終わりの「君が代」は、意外な感がしました。

#### ☆ウラントヤ (モンゴル・教員研修生)

今日は気持ちがとてもよかったですね。なぜ

ならば、東京国技館に初めて入ったからです。国技館は面白かったです。その上、我が国の相撲さんの横綱朝青龍が全勝優勝で、10回目の優勝を果たしたので、うれしいです。

また、皆さんのおかげで有名な相撲さんの旭天鵬、旭鷲山や、白鵬、白鵬のご両親と一緒に写真を撮ってもらえました。皆様に感謝しています。お弁当もありがとうございました。

#### ※千秀華 (韓国・日研生)

朝青龍のファンだったので、横綱に会えて、身近に横綱の取り組みが見られて、非常によかった。さすが、横綱!! 圧倒的な強さで感動を与えてくれた。連れてきてもらえて本当にありがたく思っています。

#### ☆イバ チャング (カナダ・ISEPTUF)

日本語がよくわからないのに、本当に面白いと思った。今日初めて相撲の競技場に来てドキドキした。残念ながら相撲の優勝者が日本人ではないので、日本人は国技の相撲が嫌いになってきた?!

#### ☆ノエミ ゴッドフロア (フランス・研究生)

大相撲は本当に楽しかった。また、すごく面白かった。大相撲は私の国のスポーツと比べると、全然違う。宗教的なスポーツだと思う。ほんとにありがとうございました。最高だった。

#### ☆許慧穎 (台湾・大学院生)

相撲という国技は、ほんとに奥深いことをあらためて実感した。体型が小さくとも、力より



技や知恵で勝った力士たちに感心した。力士たちの名前や特徴などを、見に行く前に勉強しておけば、もっともっと楽しめると思った。

#### ☆秦富明（中国・大学院生）

この相撲でパワーを見せてもらった。留学生支援の会の方々に感謝の気持ちで一杯だ。相撲選手は色々な国からの人で構成されているので、面白い試合が出来たと実感する。同じくすばらしい日本国も他国の力を借りてさらにいい国になって欲しい。

### 1-6 ホームステイ

横浜でのホームステイ  
ゼキエ・トスン  
(トルコ・ISEPTUFS)

佐橋さんの家でホームステイしたのは、一ヶ月前のことでした。お正月のすぐ後に横浜に行って、佐橋さんの家に一泊しました。このホームステイを通して、日本の日常生活や横浜の歴史について、佐橋さんからいろいろ教えてもらって、とてもうれしく思いました。

家に連れて行ってもらった時に、最初目にしたのは、家のスタイルでした。三階建ての家の中も、外のようにヨーロップスタイルでした。後で佐橋さんが住んでいる所のまわりを散歩してみたら、これはその辺の建物のスタイルが、みんな同じだからかな、と思いました。

横浜の中心に、昔外国人が住んでいた所が一杯あったと言うことを、佐橋さんから教えてもらいました。彼女は、横浜での歴史的な建物について、ボランティアでガイドとして働いたそうで、私にも親切に説明してくれました。横浜について、とても

詳しい佐橋さんと会った私は、とてもラッキーだとおもいました。

次の日、横浜の三溪園という場所に行きました。原三溪が作ったこの庭園では、京都と奈良と鎌倉から持ってきた、お寺や茶室などが集まっていて、驚くほどにきれいな庭でした。橋やお寺の和を見て、本当に日本ぽいと感じました。

このホームステイでは、日常生活を観察することもできました。一つびっくりしたことは、家のお父さんが家事をしていたことです。日本家庭では、いつもお母さんが料理を作ったり、皿を洗ったりするというイメージをもっていたからです。

いろいろなことを理解できて、本当にいい経験になりました。またこのような機会があれば、ぜひ参加してみたいと思います。

#### 姉と二人で静岡長興寺へ

ナホ・ングン・スイン

(タイ 日研生)

温かかったおもてなしに感謝！！

冬休みの時、日本を旅行するため姉が、タイから来ました。その時は、姉と一緒にホームステイをしたいと思っていました。支援の会の宮田さんに、静岡県沼津市にある、長興寺の松下宗伯様を紹介して頂きました。松下様は、30年ほど前に東京外大の英米科を卒業したそうです。今回は、私たち2人をお寺に泊めてくださるとのことでした。

1月12日から13日の1泊しか泊まられなかったけれど、いい経験をさせて頂きました。

12日9時頃、沼津駅に着くと、松下様が車で駅まで迎えに来てくださっていました。会った時、とても優しい感じの人で、いつもにこにこしていらっしゃいました。その後、車で箱根を案内して頂きました。神社について新しい知識をくださいました。姉は、日本語が全然わからないので、松下

様は、英語でも説明してくださった。それに、三島大社では、神様に仕える人と一緒に写真を撮って、福太郎というお餅とお茶をごちそうになりました。その日、箱根はとても寒かったので、松下様はとても心配して、貼るカイロを買って下さいました。おかげで暖かくなりました。12時頃、おいしいラーメンをご馳走になって、その後、沼津御用邸記念公園を案内して下さいました。ここでは、豊かな自然の公園や、博物館、謁見所に置かれている、玉座用の肘掛け椅子などがあり、歴史や文化の知識を知ることになりました。

次に、長興寺に行きました。もともと私たちが泊まる場所は、お寺の敷地内の一軒家ということでしたが、冬はその家が寒いので、松下様の家に泊めて下さいました。夕食は自炊だと言われていましたが、部屋にお茶、ケーキなど出してくださって、とても温かいもてなしでした。

13日は、修善寺などを案内したいけれども、その日はちょっと用事があってということで、三須恭子さんというお友達を紹介して下さいました。そして、私たちを三島駅に送ってくださり、お土産まで下さいました。修善寺では神社、お寺、温泉など、様々なところを見物しました。

今回のホームステイは、とても楽しく、すばらしい経験をすることが出来、感謝の気持ちは、とても言葉では言い表せません。

## 2. ホームページ閲覧者

### 1万人を超える

2003年4月より、リニューアルして運用している当会のホームページへの延べ閲覧者数は、昨年11月末に1万人を越えました。

留学生を支援するという、地味な活動の一端を支えるホームページにも、これだけの関心が寄せられているのかと、改めて思います。この中には、ホームページを見たからと、岐阜県平田町の、平田中学の6人の生徒と先生が、昨年9月に東外大内の当会「連絡室」を訪れ、中国、バングラデシュ、スーダンの留学生たちと、2時間にわたって交流するという一幕もありました。修学旅行を利用した中学校の総合学習の一環として行われたそうです。

ホームページは、イベントのある度に不定期で更新していますが、ご要望・ご意見もよろしくお願いします。

## 3. これからの活動

### 3-1. 鎌倉見学会

～留学生と散策しましょう！～

毎年恒例の鎌倉見学会ですが、今年度は3月21日(月)に開催します。参加費は約3,000円の予定です。参加希望の方は、3月14日(月)までに当会へご連絡ください。

## 4. 幹事会

平成16年度第7回幹事会 11月20日(土)  
平成16年度第8回幹事会 12月5日(日)  
平成16年度第9回幹事会 1月10日(月)  
平成16年度第10回幹事会 3月13日(日)  
(予定)

### ☆☆☆ ご寄付の御礼 ☆☆☆

次の方々からご寄付をいただきました。ありがとうございました。

鮎沢孝子、池端雪浦、上原尚剛、大河内博夫、岡妙子、ボイド清美、早川幸位、留学生日本語教育センター  
(敬称略、50音順、平成16年11月1日～平成17年1月31日)

\*\*\*\*\*

\* 留学生からの投稿 \*

\*\*\*\*\*

「思いもよらぬ出来事」

崔 成虎（中国・日本課程1年）

「犯人グループは片言の日本語を話しているアジア系外国人でした」とテレビニュースでこのようなアナウンスが流れるたびに、「今回は中国人が犯人ではないように」と祈りながらテレビを見ています。こんな私が「軽犯罪」を犯してしまいました。

その日は、夜遅くまで友達とお酒を飲んだあと駅前に停めておいた自転車で家路に向かいました。「ライトは点けてください」と自転車を走らせて間もないところで警察官に止められて言われました。「はい、すみません。」「どうやって点けるんだっけ」と言っていると、警察官が自転車の前輪にあるライトを点けてくれました。「ありがとうございます」と言って私は自転車に乗って走り出そうとすると、警察官が「外国人の方？」と尋ねたので「はい」と答えました。悔しいことに日本に滞在して4年にもなるのに、発音から外国人であることがばれます。警察官は「登録証をみせて」と言い、私は外国人登録証を渡しました。警察官は外国人登録証の写真と私を何度も見比べていました。私は「早くしてください、僕は忙しいので」と言うと警察官は「はい、はい」と言って無線で私の乗っている自転車の登録番号を問い合わせしていました。不思議なことに、私の乗っていた自転車の持ち主は私ではないと、警察官は言うのです。

私は生まれて初めて取調室に座りました。廻りに居る警察官は、「自転車を盗んだだろう」と決め付けて言い、私は「違います」と言い、何度となくこのやり取りが繰り返されました。1時間ほど取調べが過ぎた後、私が持っていた自転車の鍵と、盗難届けが出ていた自転車の

鍵が同一な鍵であり、私が今夜乗っていた自転車は、自分の物ではないことが判りました。警察官は、自分の物ではない事を知りながら乗った、「他人のものと確信して乗った」ことを認めるように強要しました。私はまったく知らなかったもので、「知りませんでした」と主張しました。このやり取りは7時間も続き、私は狭い個室に1人で、警察官は入れ替わり、複数の人で私に自白を強要したので、体力的にも精神的にも限界に達して、声もろくに出なくなっていました。警察官は「もし君が認めなければ軽犯罪認否になって、裁判に掛けなければならない。そうすると、とても面倒なことになるよ」と言って、これが最後だと言わんばかりの態度になりました。私は裁判に掛ける費用も時間もありません。私は“自分の自転車ではないことを知りながら乗った”と認めざるをえませんでした。

日本の警察官が私を信用しないのも無理もないと思います。中国人の日本での犯罪は件数が増え続け、アジアカップでの日本人に対するブーイングなど、日本人の中国人に対するイメージは、悪くなる一方です。朝日新聞の世論調査によれば、日本人の中国人に対する好感度が、1972年の日中国交正常化以来、最低を記録したと記載されてありました。

しかし、私の事件を知った担任の先生や留学生課の先生方は、私の相談に乗って下さったり、警察署に問い合わせをして下さったりと、とてもお世話になりました。私はこの大学に入学出来たことを本当に良かったと、再認識しました。

これからは、周りの日本人が、私の日々の行いや態度を見て、中国人に対するイメージを、少しでも変えることが出来る様に、努力して行きたいと考えています。今回の事で、私の為に色々と親切にして下さった方々に報いる方法も、私の努力と行いで、中国人のイメージを変える事だと思っています。

### ☆☆☆ 会費納入に関するお願い ☆☆☆

当会の会費は、会計年度（4月から翌年の3月）に合わせて、年度ごとに納入をお願いしております。平成17年度分の会費につきましては、6月発行予定の次号会報に、振込用紙を同封いたします。また、お振込みいただく際には、会費、ご寄付など、お振込み内容を明記くださるよう、お願い申し上げます。